

今年一年の健康・幸福を願って

ふくろう新聞

<発行>

特別養護老人ホーム
淡路ふくろうの郷
広報委員会

洲本市中川原町中川原 28 番地 1
TEL: 0799-25-8550
FAX: 0799-25-8551

ホームページ
<http://www.normanet.ne.jp/hyoufuku/>

平成30年春完成予定の中川原スマートインターの工事が着々と進んでいます。設置予定の市原町内会でも少しずつ動きがあるようです。昨年より地域の方々に土地をお借りして本格的に農業を始めたおのころの家では、障害者の就労と農村活性化―農福連携による地域おこしで地域振興の一助を担うべく、生産から食品加工、流通販売まで手掛ける6次産業化を、プロの手を借りながらめざしています。



1月15日(金)、今年も地域交流会の皆様にお手伝いいただき、どんど焼きを行いました。初めなどを燃やし始めると、火は昨年より順延となり、今年も数日前まで雨が降り続いており心配していましたが、当日は雨は降らず、無事に行う事ができました。「初めて見た、すごい」と喜ばれていました。職員と一緒に入居者の皆さんを代表して火にあたり、ふくろうの郷全員の今年一年の健康をお祈りしました。(地域交流委員会)



▲火を熾す地域交流会の平野さんと入居者の黒崎さん



「初めて見た、すごい」と喜ばれていました。職員と一緒に入居者の皆さんを代表して火にあたり、ふくろうの郷全員の今年一年の健康をお祈りしました。(調理係 秦)



どんど焼きから1週間後の22日(金)、こちらも地域交流会の皆様のご協力をいただき、今年も「大根まつり」を開催しました。

▼自分で作った巻き寿司を持ってにっこり



▼皆さんさすがの一言です 慣れた手つきで巻いていきます



▲自分たちで作った巻き寿司は格別の美味しさでした

巻き寿司作り

2016 (平成28) 年度 法人事業の重点計画 (案)

1. 法人理事会・評議員会の新体制 役員改選と関わって淡路ふくろう の郷10周年記念事業並びに法人事 業構想と国による法人改革を見据 えたとりくみ

2004年9月15日に創設認可を得た
当法人は、2013年9月の理事会にお
いて10周年の節目に「10周年を迎
えた今後の事業構想（意見交換資
料）」を9月理事会で承認し、また
「ふくろうの郷10周年記念事業を準
備してきました。」

(1) 淡路ふくろうの郷10周年記
念事業

イ ふくろう学びあい文庫の創設
関係者の協力と職員の共同によ
って編集委員会を設置し、7月に①
黒崎時安さんの人生(DVD)②「花
房豊治・ふくろさんの人生」を出版、
編集中の③濱田たきささん、④土居
文子さん、⑤辛島シツカさんの人生
について、5月に完成させる。

また、引き続き、入居者の人生紙

芝居の作成、ろう者の抱える家族
問題や教育・就労・賃金など雇用
条件などを提起する「紙芝居」の
作成への貢献を行う。

□ 記念行事の準備

① 4月22日 第二回フランス料
理を楽しむ会

(協力・ホテルアナガ)

② 6月25日 ふくろうの故人を
偲ぶ会(場所・ふくろうの郷)

③ 6月25日10周年を祝つ会

(場所・ホテル・ザ・サンプラザ)

④ 6月26日 記念講演会

(場所・洲本市文化体育館)

講師 日本障害者協議会

代表 藤井克徳氏

(公益社団法人

兵庫聴覚障害者協会と共催)

(2) 中川原ふれあいセンター事
業の拡充など通じた聴覚障害者福
祉と地域貢献の推進

(3) 神戸ろうあハウスの経営を
担い、聴覚障害者総合福祉センタ
ー建設の推進

(4) 法人改革についての国の動向
を踏まえた自主的な法人理事会・評
議員会の新体制確立

2. 人事・経営・設備など改修につ いて

(1) 職員確保と援助力の向上 暮
らしぶりの援助あり方の研究

(2) 事業構想の推進に必要な財政
の安定

(3) 改修事業

3. 民主的な人格形成を主眼とした 運営の更なる追求

入居者にとって安心・安全・自
由・発達・自己尊厳につながり、職
員の労働環境などに関し論議する
なかで新しい就業規則を制定しま
した。そのことで祝祭日の休暇、夏
季休暇、冬季休暇は廃止となりまし
たが、新たに設けたリフレッシュ休
暇や職務専念義務免除の制度を積
極的に活用することで、働きがいや
人としての豊かな感性を磨きあい、
高い知識と技術、人格の民主的形成
につなぎます。



相談室からのお願い



年度	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
ろう者数	49	51	49	46	44	43	39	42	39	37

淡路ふくろうの郷入居者数(定員60名入退所含む)

淡路ふくろうの郷が開所して以来、様々な地域で生活をされているろう者の方が、ふくろうの郷にて生活をされています。みなさんの身近にろう者の方で困っている方がいれば、淡路ふくろうの郷やひょうご聴覚障害者支援センター等まで、お気軽にご相談ください。(0799-25-8550 竹原まで)

ふくろう物語 ①

前田千鶴子さんの

飲みたい気持ちをまえる

前田さんは昔からお酒を飲むことが大好きだったそうです。昔は朝1本、昼1本、夜2本と飲んでいたとのお話でした。飲み過ぎて爆睡したことが何度もあったものの、普通に家事をやっていたというお話を聞きました。前田さんは「松竹梅」「白鶴」のお酒が好きで、味が良い、魅力のある飲み物だと話されています。またお酒は百薬の長であり、飲むと気持ち良くなったり、楽しかったり、ストレス発散に良いとも話されていました。



▲「お酒、いいですか？」

酔って転倒するリスクが高く、病気が関係している方なので、お酒を出すのはどうだろうかという思いは正直ありません。

た。しかし、ふくろうの郷は楽しみだったアルコールを禁止していません。辛い思いや、ストレスを溜めないように、看護、医師に相談して、またご本人の気持ちを聞き、そして私たち職員が飲酒量の調節やその後の状態の観察やフォローを行えば良い時間を過ごしていただけないかと思えます。飲む方も飲まれていない方も施設の中でも楽しみの時間や雰囲気を楽しまれることも大切だと思います。現在は、ご本人と相談した結果、

1日1杯と決めています。とても喜ばれています。またお正月などの時期は少し多めに飲まれていることが多いですが、体調を第一に考えながらご本人の気持ちに出来る範囲寄り添って無理なく楽しい生活を送っていただけでも作ってあげたいと思います。

(花木ユニット 石川富美)

部署間の理解を連携に

昨年12月より介護職員不足により、総務係から生活援助係へと異動しました。現場に入って思ったのは、一か月スパの事務業務に比べ、流れが一日サイクルのため毎日やるのが分単位で決まっているという事。そのため、職員が一人欠けると、周りに大きな負担になります。

また、「事務所はどんな仕事をしているのか」と聞かれることが多く、部署間で互いに何を頑張っているのか、何が大変なのか知っていくことで更に連携していけるのではと思えます。

(星海ユニット 川満和則)

実習生感想 知識と経験を積み重ねたい

実習生の三好さんより感想を頂きました。

今回の、クリスマス会のゲーム企画を少しお手伝いさせて頂き、様々な刺激を受けました。

まず、印象に残ったのが、どんな人でも可能なゲームを考えるのは難しいという事でした。でも、身体が健康であっても耳が聞こえない、聞こえる人同士が楽しめるゲームを考えるのも容易でなかったりするので、変顔で繋がっていくというゲームは表情をつくる為の顔の筋肉のみで出来るので面白いなと思いました。行き詰った時には、職員さんや周りの人が、フォローし進められていましたが、上肢が不自由な方々は、他の方が代わりに対応していました。そして、反省点は周りが慌ただしい中で何もできずに動けなかったことです。

2回目の時の職員さんが2人程しかいなく、2人とも手が離せない状態がありました。その時、一人の入居者様の様子が少しおかしくなったり、機嫌が悪くなったりしたことがあり、どのように対応をしたらよいか戸惑いました。直ぐに伝え、対応してもらい大丈夫だったので、本当に神経を使っているのを見て臨機応変に対応するのは、大変なことであると痛感しました。経験と知識を積み重ね、どこまで手を出したら良いか、何をしたら良いか、分かるよう身につけていきたいです。



2016 (平成28) 年度 法人事業の重点計画 (案)

1. 法人理事会・評議員会の新体制
役員改選と関わって淡路ふくろう
の郷10周年記念事業並びに法人事
業構想と国による法人改革を見据
えたとりくみ

2004年9月15日に創設認可を得た
当法人は、2013年9月の理事会にお
いて10周年の節目に「10周年を迎
えた今後の事業構想(意見交換資
料)」を9月理事会で承認し、また
ふくろうの郷10周年記念事業を準
備してきました。

(1) 淡路ふくろうの郷10周年記
念事業

イ ふくろう学びあい文庫の創設

関係者の協力と職員の共同によ
って編集委員会を設置し、7月に①
黒崎時安さんの人生(DVD)②「花
房豊治・ふくろさんの人生」を出版、
編集中の③濱田たきささん、④土居
文子さん、⑤辛島シツカさんの人生
について、5月に完成させる。

また、引き続き、入居者の人生紙

芝居の作成、ろう者の抱える家族
問題や教育・就労・賃金など雇用
条件などを提起する「紙芝居」の
作成への貢献を行う。

□ 記念行事の準備

① 4月22日 第二回フランス料
理を楽しむ会

(協力・ホテルアナガ)

② 6月25日 ふくろうの故人を

偲ぶ会(場所・ふくろうの郷)

③ 6月25日10周年を祝つ会

(場所・ホテル・ザ・サンプラザ)

④ 6月26日 記念講演会

(場所・洲本市文化体育館
講師 日本障害者協議会

代表 藤井克徳氏

(公益社団法人

兵庫聴覚障害者協会と共催)

(2) 中川原ふれあいセンター事
業の拡充など通じた聴覚障害者福
祉と地域貢献の推進

(3) 神戸ろうあハウスの経営を
担い、聴覚障害者総合福祉センタ
ー建設の推進

(4) 法人改革についての国の動向
を踏まえた自主的な法人理事会・評
議員会の新体制確立

2. 人事・経営・設備など改修につ
いて

(1) 職員確保と援助力の向上 暮
らしづくりの援助あり方の研究

(2) 事業構想の推進に必要な財政
の安定

(3) 改修事業

3. 民主的な人格形成を主眼とした
運営の更なる追求

入居者にとって安心・安全・自
由・発達・自己尊厳につながり、職
員の労働環境などに関し論議する
なかで新しい就業規則を制定しま
した。そのことで祝祭日の休暇、夏
季休暇、冬季休暇は廃止となりまし
たが、新たに設けたリフレッシュ休
暇や職務専念義務免除の制度を積
極的に活用することで、働きがいや
人としての豊かな感性を磨きあい、
高い知識と技術、人格の民主的形成
につなぎます。



相談室からのお願い



年度	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
ろう者数	49	51	49	46	44	43	39	42	39	37

淡路ふくろうの郷入居者数(定員60名入退所含む)

淡路ふくろうの郷が開所して以来、様々な地域で生活をされているろう者の方が、ふくろうの郷に
て生活をされています。みなさんの身近にろう者の方で困っている方がいれば、淡路ふくろうの郷
やひょうご聴覚障害者支援センター等まで、お気軽にご相談ください。(0799-25-8550 竹原まで)

ふくろう物語①

前田千鶴子さんの

飲みたい気持ちをまえる

前田さんは昔からお酒を飲むことが大好きだったそうです。昔は朝1本、昼1本、夜2本と飲んでいたとのお話でした。飲み過ぎて爆睡したことが何度もあったものの、普通に家事をやっていたというお話を聞きました。前田さんは「松竹梅」「白鶴」のお酒が好きで、味が良い、魅力のある飲み物だと話されています。またお酒は百薬の長であり、飲むと気持ち良くなったり、楽しかったり、ストレス発散に良いとも話されていました。



▲「お酒、いいですか？」

酔って転倒するリスクが高く、病気が関係している方なので、お酒を出すのはどうだろうかという思いは正直ありません。

た。しかし、ふくろうの郷は楽しみだったアルコールを禁止していません。辛い思いや、ストレスを溜めないように、看護、医師に相談して、またご本人の気持ちを聞き、そして私たち職員が飲酒量の調節やその後の状態の観察やフォローを行えば良い時間を過ごしていただけないかと思えます。飲む方も飲まれていない方も施設の中でも楽しみの時間や雰囲気を楽しまれることも大切だと思います。現在は、ご本人と相談した結果、

1日1杯と決めています。とても喜ばれています。またお正月などの時期は少し多めに飲まれていることが多いですが、体調を第一に考えながらご本人の気持ちに出来る範囲寄り添って無理なく楽しい生活を送っていただけでも作っていただけだと思います。

(花木ユニット 石川富美)

部署間の理解を連携に

昨年12月より介護職員不足により、総務係から生活援助係へと異動しました。現場に入って思ったのは、一か月スパの事務業務に比べ、流れが一日サイクルのため毎日やるのが分単位で決まっているという事。そのため、職員が一人欠けると、周りに大きな負担になります。

また、「事務所はどんな仕事をしているのか」と聞かれることが多く、部署間で互いに何を頑張っているのか、何が大変なのか知っていくことで更に連携していけるのではと思えます。

(星海ユニット 川満和則)

実習生感想 知識と経験を積み重ねたい

実習生の三好さんより感想を頂きました。

今回の、クリスマス会のゲーム企画を少しお手伝いさせて頂き、様々な刺激を受けました。

まず、印象に残ったのが、どんな人でも可能なゲームを考えるのは難しいという事でした。でも、身体が健康であっても耳が聞こえない、聞こえる人同士が楽しめるゲームを考えるのも容易でなかったりするので、変顔で繋がっていくというゲームは表情をつくる為の顔の筋肉のみで出来るので面白いなと思いました。行き詰った時には、職員さんや周りの人が、フォローし進められていましたが、上肢が不自由な方々は、他の方が代わりに対応していました。そして、反省点は周りが慌ただしい中で何もできずに動けなかったことです。

2回目の時の職員さんが2人程しかいなく、2人とも手が離せない状態がありました。その時、一人の入居者様の様子が少しおかしくなったり、機嫌が悪くなったりしたことがあり、どのように対応をしたらよいか戸惑いました。直ぐに伝え、対応してもらい大丈夫だったので、本当に神経を使って周りを見て臨機応変に対応するのは、大変なことであると痛感しました。経験と知識を積み重ね、どこまで手を出したら良いか、何をしたら良いか、分かるよう身につけていきたいです。



**淡路聴覚障害者
センター便り**

洲本市港2-26
洲本市健康福祉館3階

中途失聴難聴者コミュニケーション訓練事業「楽々コミュニケーション」を行いました。センター登録されている方々、一般の方々にも参加を呼びかけています。今回は、南あわじ市で開催ということで、南あわじ中途失聴者の会の例会と兼ねさせていただきました。

はじめましての方やお久しぶりの方も参加

学習では自己紹介とともに参加者の自身の聞こえについてもお話しいただきました。参加者の年齢も様々であり、聞こえについては、聞こえなくなつた時も様々でありコミュニケーションをとるうえで同じように悩みを持つておられます。

講師の言語聴覚士の齋藤奈奈氏による「耳のしくみ」についてお話しいただいた後、身近な食材の単語を参加者からだしてもらいゲーム感覚でかるたのような形式で口話の読み取りをやりました。

嶋本きよ子さんは今回の参加者の中では最高齢の93歳。以前は、南あわじ中途失

再会を楽しみながら学習会

～楽々コミュニケーション～
1月17日福良公民館



▲ゲームを楽しむ参加者
右から嶋本さんと谷口さん

聴者の会の会員で、例会の際は毎回原付バイクで来られていたのですが、高齢の為乗るのをやめ、その後は会も退会されたそうです。この日は、センターからのお知らせを見て申し込まれました。「今回は家から近く、送迎もある。以前通っていた会の皆さんにも会えると思い申し込んだ」と嶋本さん。

最後にかたるたを頂きましたが、一番たくさん札を取つたのは嶋本さんでした。「毎日、友達とトランプやオセロをして頭の体操をやっている。そのおかげかな」と感想を述べられました。

「今日は久しぶりに嶋本さんにも会え、かるたも交え楽しく学べました」と南あわじ中途失聴者の会員で参加者の谷口緑さん。今後でも参加できやすい、次も参加したいと思っていたという学習会を計画していきたいと思えます。

「通訳現場でより適切な対応をするために」

「デマンドコントロールスキマを学ぶ」

その場に応じた判断で適切な行動を

1月19日、兵庫県立聴覚障害者情報センターで登録手話通訳者、要約筆記者、派遣コーディネーターを対象とした研修会が開催されました。通訳者は、様々な場面で自らその場の状況(デマンド)に応じた判断をし、行動(コントロール)するという現場力が求められます。現場での判断や行動を振り返り、その理由や根拠を文章等で可視化し、通訳者の説明責任を果たすための手法(スキマ)が「デマンドコントロールスキマ」というものです。研修では文献や理論の紹介から通訳の専門性を理解し、次に4人ずつのグループに分かれて講師が準備された事例について「どのような根拠でどのよう

に行動するのか」を話し合い「デマンドコントロール」を実践的に学習しました。行動しています。また、同じ現場は一つもないので「こういう場合はこうすべき」というようなルールを作ることができず、通訳者の裁量によって状況が左右されることもあります。そのような大変な任務を遂行している中で、専門職を担っているという自身の自覚とともに通訳者の身分を保障する制度のさらなる発展が求められると感じました。

「コーディネーターの役割を考える」

利用者や通訳者をコーディネートする上でも振り返りがとても大切だと思えました。通訳者からの報告には、「通訳の場所を決めるのに苦労した」「病院で通訳ではなく介助のようなことをお願いされた」「ボランティアさんですよね」と言われたこと、現場で戸惑ったことも寄せられます。このような具体的な事例を取り上げて話し合う場を設け、前向きに話し合える関係を築いていくこともコーディネーターの大切な役割だと感じました。

同じ現場は一つもない

現場で通訳者は短い時間内に言葉の選択はもちろんのこと、通訳の場所、態度、声や表情を現場に合わせて考えて

個々の力を高め、集団の質も向上

実践から次に繋がる改善や成長を目指すとき、考えたことを言語化(文章化)することが必須となります。翻訳力、現場での対応力の向上とともに言語化の力を蓄えていけるような取り組みができればと思います。また、状況や理由を分析するという認識を共有していきたいです。個々の力を高めることで集団としての質も向上できればと思います。

新しい紙芝居が

完成しました。

ろう者が語る紙芝居の第3弾が完成しました。今回は私、吉川の物語です。ろう学校時代や仕事のこと、そして阪神淡路大震災を機に淡路聴覚障害者センター設立までの経緯など盛りだくさんの内容です。皆さんに披露できるのを楽しみにしています。



▲学校や町内会等講演依頼をお待ちしております。

中川原高齢者・障がい者地域

ふれあいセンター



〒656-0002
兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2

おのころ屋パンづくりのスタッフさん4名で、年齢は20代の方から80歳前の方まで様々です。それぞれ個々に合わせた支援を行うために、私たち支援員が積極的に研修会等に参加し、スキルアップを目指さなければならぬと思っています。スタッフの皆さんと一緒に新しい商品や季節に合わせた商品を考え、パン・焼菓子のバリエーションを増やし、おのころ屋として特徴のある商品を製造したいと思えます。又、色々な行事での販売や、営業日数・時間・移動販売の場所を増やすことにより、スタッフの皆さんの工資アップに繋がっていきたく思います。そしてスタッフの皆さんがお互いに交流し、今後の製造工程の参考にすため、レクリエーションの計画を立て、施設の見学などを行いたいと思います。

(職員 山田・岡本)

～2016年おのころの家・おのころ屋の抱負と目標～



ふれあい工房周辺で清掃作業の様子

農作業者さんの目標は

①毎日の作業の取組みが社会的な労働に位置づくように意識と内容を変革していきます。

②労働を通じて共通の言葉づくりコミュニケーションを豊かにします。

③生活のリズムを確立し生活をより豊かにしていきます。

④中川原地域ふれあいセンターの「おたがいさま中川原事業」等積極的に実践に参加し地域を支援していきます。

⑤工賃アップできるような新規事業を開拓します。

(職員 藤崎・中島)

屋内作業者さんの目標は

①毎日家においても一人で寂しいし退屈だ。週2回だけどこうやって来れる所があって嬉しい。みんなと会って色々話をしたり、一緒に色々作って楽しい。仕事と言うよりも、楽しい場所がいい。

②ミシンの使い方を覚えて色々な物を作ってみたい。さおりおりをしたい。

③今まで通り、ポーチや袋、座布団など売れる商品を頑張る。

④色々な障害の人が集まっていて、自分と合わなかったり、嫌だと思いかもしいけれど、人の悪口を言うのではなく、みんな仲良く、助けあって仕事のできる場所であって欲しい。

(職員 藤本・東田)



屋内作業の様子

淡路市に聴覚障害者福祉交流センターをめざそう！

淡路島では難聴者等に配慮のあるデイサービスセンター「桜ヶ丘」が2014年5月から「中川原地域ふれあいセンター」で始まりました。すでに「おのころの家」では生きがいの場として、就労の場としての難聴者の利用が増加しております。高齢化社会は難聴社会といわれますが、介護現場で聞こえないことにより孤立している難聴者に目を向けなければなりません。聴覚リハビリテーションやコミュニケーション訓練等を通して、その人に合った支援が切実な要望となっています。

2016年4月1日より淡路市手話言語条例が施行されます。これを機能して聴覚障害者福祉交流センターに、この支援機能を含めていくことが必要です。又、「一人ひとりを大切に ともに生きる」ことが保障される社会、社会的孤立、排除や差別のない、みんなが互いに包みあう社会を目指すことは、私たちの強い願いです。(橋詰 一則)

～コミュニケーション支援として実習～

今回、手話通訳へ勉強の一環として、「おのころの家」に3日間お邪魔させていただきました。

何をお手伝いすればよいのかがわからず、アタフタしていた私に対し、たくさんの方が手取り足取り作業のやり方を教えてくださいました。本当に嬉しかったです。手先の不器用な私は、作業を始めてからも、その内追い払われるのではないかと内心ドキドキしていましたが、実際はそんなことには全くならず、順調(?)に、時に手話で会話をしながら楽しく過ごすことができました。最初はただの布だったものが、たくさんの方の工程を経て別の物に生まれ変わる。出来上がった作品は、自分も手伝ったという欲目のあるのか、どの作品よりも素敵に感じました。また、作業に取り組む利用者さんはみんな職人さんのようで、やっぱり素敵で恰好よく思いました。3日間という短い間でしたが、おのころの家の一員として働くことができ嬉しかったです。感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

国立リハビリテーションセンター学院
手話通訳学科 2年 山崎 瑞穂

続々・地域を語る 中川原むかし話

かるた 口説き

NO.19

北 岡 肇

① 力石・もちあげ 競う

村まつり(その1)

力石 聞いたことありますか

見たことありますか

さわつたことありますか

さあどうでしょうか…

郷土史について研究されていきました、故濱岡きみ子さんの著書「淡路の力石」の中から断片的に抄出して書かして頂きました。

力石に対する信仰は古くからあり、神の依代である重い石を持ち上げて力技を競い、一年の豊凶を占う行事もその一つである。全国的に若者が大きな石を頭上高くかかげて力を競う、いわゆる力石の民俗はその娯楽化した姿である。その石が神社の境内に置かれていることは、古い時代の信仰の跡が伺われる。

力石を持ち上げるとは庶民の遊びであり娯楽であり、また体力づくりのためでもあった。農村地帯における庶民のものであるだ

けに記録が皆無といってよいほど残っていない。

淡路の力石は錦絵にあるような興行的なものとは違い生活に密着して発達してきたものだけに力石に切りつけのないものが多い、普通練習石、稽古石といわれたもので海岸とか川から拾ってきた自然の石がまた多い。

仕事を支えるためには力が要求された、阿波藩農民の法度に一人前の基として力石があった。そのために暇を見ては力石を持ち上げて体に力をつけていたものである。ほとんどが五斗石、それから六斗石、七斗石、八斗石、九斗石、一石石というふうに米の重さを基準にして呼ぶ力石もある。

力石は人の集まる所に少なくとも三個人は置かれており20貫、24貫、32貫が多く重い石から順に一番石、二番石、三番石と呼ばれ、形は卵円型、楕円形、丸型などがある。著者が調べた。

- 淡路島内の力石・箇所(個数)◇神社 51(116)◇寺院 41(92)◇薬師堂 24(82)
- ◇集会所 29(71)◇地藏堂 13(40)◇観音堂 10(31)外 58(85)

洲本市中川原町内では二ツ石大照寺楕円型・安坂下会館 同各一個

ふくろうの郷 10周年記念 「フランス料理を楽しむ会」開催予告

来る4月22日(金)、淡路ふくろうの郷開設10周年を記念し、「フランス料理を楽しむ会」を開催します。ホテルアナガの中野シェフのお力添えで、フランス料理のコースをお出しする予定です。メニューや詳細が決まり次第、ふくろう新聞でもお知らせしていきたいと思しますので、皆様是非お越しください。(調理係 秦)

お 知 ら せ

第2回聴覚障害者医療研究集会にて
レポート報告
時：2016年2月7日(日)
題：ろう者と聴者のMMS E得点の比較
※MMS E…介護保険の調査の一つの認知機能検査です。
報告者：言語聴覚士 齋藤奈奈

ふくろう募金箱ありがとうございます。

ふくろう新聞28年1月15日発行(第113号)最後のページ「昨年10月末の『ふくろうふれ愛まつり』でお披露目された『ふくろう募金箱』に昨年末までに103万2327円が寄せられました。皆様のご協力ありがとうございました。今後とも、ふくろう基金へのご協力、お待ちしております。」と、「ふくろう・募金箱」の写真と記事が掲載されていました。



“昨年10月25日から2か月余り。まったくお金が天から降ってきたようだ…！ 100万円余りものお金、こんなことあるのか…！”

まったく夢のようだ！ 誰かが入れてくださったのだらう…！ そうでなければお金が入るはずがない…！ いろいろとふくろうの郷の玄関でのお姿やお顔を思い浮かべるのであった…。涙が出るなどありがたい嬉しいありがとうございました。

(ふくろう募金箱を提案した入所者の一人として)